

NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 一般社団法人 Bridge for Fukushima

代表者名 代表理事 伴場賢一

1. 事業名

福島県在住及び出身高校生・大学生対象「復興リーダー人材育成事業」

2. 事業カテゴリー

3. 事業期間 2019年9月1日 ～2020年12月31日 (488日間)

4. 契約金額 5,000,000円

5. 担当者名

伴場・安齋・沓沢・綿崎

6. 事業目的

長期に渡る福島復興を担う、起業型人材を育成する。

7. 事業の成果

COVID-19の影響により、事業のコンポーネントを大きく変更することを余儀なくされましたが、事業の目的である長期にわたる福島復興を担う企業型人材を育成するという目的に対して、①高校生大学生の実践的な活動をサポートすること、②モデルとなるキャリアパスを作ること、③高校生大学生間のネットワークを構築すること、の各手段については、早々にオンラインに変更したり、手法を検討しながら実施したことで、概ね達成することができました。

他方、高校生においては、3カ月間の休校があったことで学校行事の変更が相次ぎ、参加が制限されたことがとても残念でした。また、移動や対面でのイベントを制限しなくてはならなかったことで、いくつかのコンポーネントは実施する事は出来ませんでした。

そんな中でも、延べ500名以上が通事業に参加し、10個のプロジェクトが運営され、高校生大学生のネットワークを構築することができました。

特に重要視していたのが、各コンポーネントに参加する大学生高校生が、自分事として参加することで、各コンポーネントの下準備や意思決定については、ほとんどが参加間で議論が行われ自分たちの手で実施されました。

また、ステイホームと言うスローガンによって、自宅で時間を過ごすことが多くなった高校生大学生が、精神的に不安定になったことで、大学受験に対する相談会を大学生が企画したり、個人の相談を受ける機会をつくりました。臨機応変に対応したことで、最終的にはキャリアパスをより具体的に知ることができたり、大学生が高校先生と直接話す機会も増えたことでネットワークを構築できました。

8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

(1) コンポーネント①高校生インターン

自己評価、C

実績、受け入れ企業 1 社、参加高校生 1 名

受け入れ可能企業 6 社

今年度から、大学入試の変更が行われ、授業開始当初から高校生によるインターンについては、高校生及び高校の教員等からも関心が高く当事業において優先順位の高い事業でありましたが、企業側の受け入れ体制を作ることも難しく、また何よりも高校生たちの自由になる時間が限定されてしまったため長期的に関わるインターンへの参加は難しいと言う結果になってしまいました。

(2) コンポーネント②カッコいい大人

自己評価、S

実績、回数 31 回、参加者 306 名

※大学生によるオンライン座談会、回数 7 回、参加者のべ 84 名

オンラインメタリング、参加者のべ 68 名

お話を一回、そして Ready to Go と名前をつけてオンラインによる大人の話を聞く会を 30 回行ないました。当初の予定とは変更しましたが、高校生大学生にとって時間を持て余していた、2020 年 3 月の緊急事態宣言発令直後に実施したことで、参加者も非常に多かったことに加え、スピーカーとなっただけの方々が国内外からそして経済界、ソーシャル業界等から様々な方々に参加いただくことができました。

さらには、スピノフ企画として、高校生のオープンキャンパスが中止になったことから、大学生が自分たちの大学生活についてや大学の紹介、さらには受験勉強についてのアドバイスを行うオンライン座談会を 4 月から 7 月の間に実施しました。

また 2020 年 6 月以降、オンラインでの 1 対 1 のメンタリングを開始し、キャリア構築に関すること、自分の強みの発掘、進学や就職に関する相談等を受けました。

(3) コンポーネント③ソラトブルマ

自己評価、-

当初 2020 年の 3 月に実施を予定していたものでしたが、実施を見送り、コンポーネント②とともに、オンラインでのワークショップに変更しました。

(4) コンポーネント④地域外研修

自己評価 A

2019 年 9 月、宮崎での研修、参加者 5 名

2020 年 12 月、沖縄での研修、参加予定者 9 名 ただし 2 週間前に中止

どちらの研修についても、1 ヶ月ほど前からメンバーを募集し、メンバーが決定された時点から自分たちで何のために研修に行くのかのテーマを設定し、そこから訪問先を選び訪問先と交渉を行い日程を作成して参加すると言う形の研修を行いました。

宮崎での研修については、地域商社やまちづくり株式会社の役割を学ぶと言うことをテーマに、地域の発展のために若者がどんな役割を果たせるのか、戦略的にまちづくりをどう行っていくのか等についての活発な意見の交換が行われました。

沖縄での研修については、貧困と観光と言うテーマで訪問先を設定しアポイントを取っていたところで

したが、給食に東京都内での感染が拡大し、レベル3となったことから中止としました。

(5) コンポーネント⑤プロジェクト・プランニング教室

自己評価、-

高校生を対象に研修を行う予定でしたが、3回ほど予定していたものが、コロナの影響や学校行事と重なってしまったため最終的には中止とさせていただきました。

(6) コンポーネント⑥スモールスタート

自己評価、S

実施された事業 10、参加人数 27名、

COVID-19の影響で、高校生大学生の事務所への立ち入りを1部制限した中で、後半はオンラインでのメンター的な役割を行いながら、10個の事業がゼロから自分たちで企画し実行されました。

その中でも、福島農業を考えるチームと、オンラインオープンキャンパスについては、そのインパクトの大きさから外部から非常に大きな評価をいただき、終了後の2021年以降も形を変えて継続して行く予定です。

(7) コンポーネント⑦高校生・大学生の交流プログラム

自己評価、S

実施回数 3回、のべ参加人数 49名

第1回目は2020年12月に安達太良フォレストパークで開催し、高校生大学生ともに今年の反省と来年の抱負を共有しあうワークショップを実施、

2回目は、ギリギリまでリアルでの開催を検討していましたが、最終的にオンラインで2020年の8月に、現在行っているプロジェクトや関心があることについてのブラッシュアップを行うワークショップを実施、

3回目は2020年の12月末に、オンラインで、第1回目と同じ内容で実施をすることができました。

高校生大学生が一堂に参加する機会は、このイベントでそれぞれ姉妹ができたような感覚になるとの感想にあるように、ネットワークを構築するのに役立ったと考えています。

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

本事業においては、2020年3月以降、とにかくCOVID-19の対応がすべてでした。事業運営においての外部要因であったため対応しきれないことが多くありましたが、目的に従って実施内容や手段を大幅に変えることによって一定の成果を担保できた事は良い経験でした。

他方課題としては、リアルでの関係性づくりができなかったことで、スタッフにとってSNSやオンラインでのやりとりが非常に多くなり負担になったこと、さらにはCOVID-19が収束した後のフォローアップが特に必要になると考えています。

コンポーネント2では、オンラインでの実施を行ったことで、距離や時間の理由に縛られず、参加者もスピーカーも国内外から参加していただけるようになった事は大きな収穫の1つでもありました。

またいくつかのコンポーネントで、中止とした事は本当に残念な事でしたが、企画の段階から高校生大学生が参加したことで、本事業が終わってもその企画はどうしても行いたいとの意見が多く、自主予算もしくは自分たちでフェンドレイズを行い実施したいと声が多いです。参加型で高校生大学生に企画を渡すことで意識が全く異なるということを改めて教訓として学びました。

10. 協力体制の構築

協力体制においては、特に大学生を企画の立案者に参画させることによって、協力体制が構築することができました。さらには、高校生インターンや地域外研修においては県立高校との連絡を密に行いながら実施したことで、今後協力を得やすい環境になったと考えています。

持続可能性については、オンラインによる話を聞く会やメンタリングについては、ニーズも高く、オンラインによる手軽さから継続をしています。

さらには、スモールスタートのプロジェクトの中から、高校生大学生を対象にしたリーダー人材育成のための合宿(ノーベル賞受賞者を招聘し、その方のリーダーシップと自分のキャリアを考えるためのワークショップ)、大学生が小学生を対象に農業を教える子供農園プロジェクト、などの新たな事業が企画され、今年度以降継続して事業を行っていく予定です。

11. Civic Force との協働について

主の担当者である伴場からの報告が遅れたことで、多大なご迷惑をかけしたことをまずはお詫びさせていただきます。

共同させていただいたことでメリットとして感じたのは、常に私どもの **Facebook** などをチェックしていただき、イベントを実施したときには **Facebook** 等で広告をしていただき、とても心強く感じることができました。

またご担当者様にはご迷惑をかけしましたが、毎月毎月の事業報告書についてリマインドしていただくことで、振り返りを行いながら事業を継続することができました。本当にありがとうございました。